



# 西中学校だより

令和 5年 4月10日  
東久留米市立西中学校



## 入学・進級おめでとうございます

校長 小川 高弘

令和5年度4月1日、東久留米市立西中学校第15代校長として着任しました、小川高弘と申します。50年以上の歴史のある西中学校の校長の責任を重く受け止めつつ、「賢く 優しく 逞しく 一年 自主 二年 自律 三年 自治」の教育目標のもと、「良き社会人」と「正義の通る集団」の育成を目指して、教育活動を進めてまいります。4月6日に始業式、7日に入学式を行い、令和5年度の東久留米市立西中学校の教育活動が始まりました。157名の新入生を迎え、全校生徒480名でのスタートです。どうぞよろしく願いいたします。

文部科学省は、4月から「児童生徒及び教職員については、学校教育活動に当たって、マスクの着用を求めないことを基本とすること」と示し、学校でのマスクの着用は個人の判断に委ねられことになりました。本校でも、東久留米市教育委員会の指示に従い、マスクの着用は求めないこととします。また、新型コロナウイルス感染症に限らず、感染症が流行している場合などには、教職員がマスクを着用する又は生徒に対してマスクの着用を促すことも考えられますが、そのような場合においても、マスクの着用を強いることのないようにします。制限が緩和されても感染症対策が終了するわけではありませんので、基本的な感染対策は継続していきます。今年度も、ご理解とご協力をお願いいたします。

始業式では、「自分」「友達」「集団」の3つの視点をもってほしいという話をしました。まずは自分を見つめて、何かに挑戦しているか、やるべきことをやっているか、継続すること、改善することは何かを見付けることが大切です。次に友達を見て、これからどんなことが一緒にできるのか、お互いを認め合っているか、傷つけていないか、他の人と一緒に生活する楽しさに気付いてほしいと思います。最後に集団です。生徒は、学校でクラスや学年、部活動や委員会、一人がいくつもの集団に属しています。その集団はお互いに励まし合っているか、周りの人にやさしく声をかけているかということを意識し、自分が属している集団の質を高める必要があると話しました。

入学式の式辞では、「学ぶ喜び・分かる喜び」について話しました。人は、今まで知らなかったことを新しく知ったり、分からなかった事が分かるようになったりすると、嬉しくなり、もっと学びたいと思うようになります。さらに、これから学ぶ知識や技能を生かして、自分で考え、判断し、表現する力を伸ばしてほしいことを話しました。保護者の皆様には、学校・家庭・地域がそれぞれの視点から子供を見て、協力して子供を育てていくことをお願いしました。

始業式で、話を聞く2・3年生の視線を感じつつ、落ち着いて話を聞く姿勢が伝わりました。来週からの学校生活で、上級生の姿を見て、1年生にも同じ姿勢が伝わることを期待します。